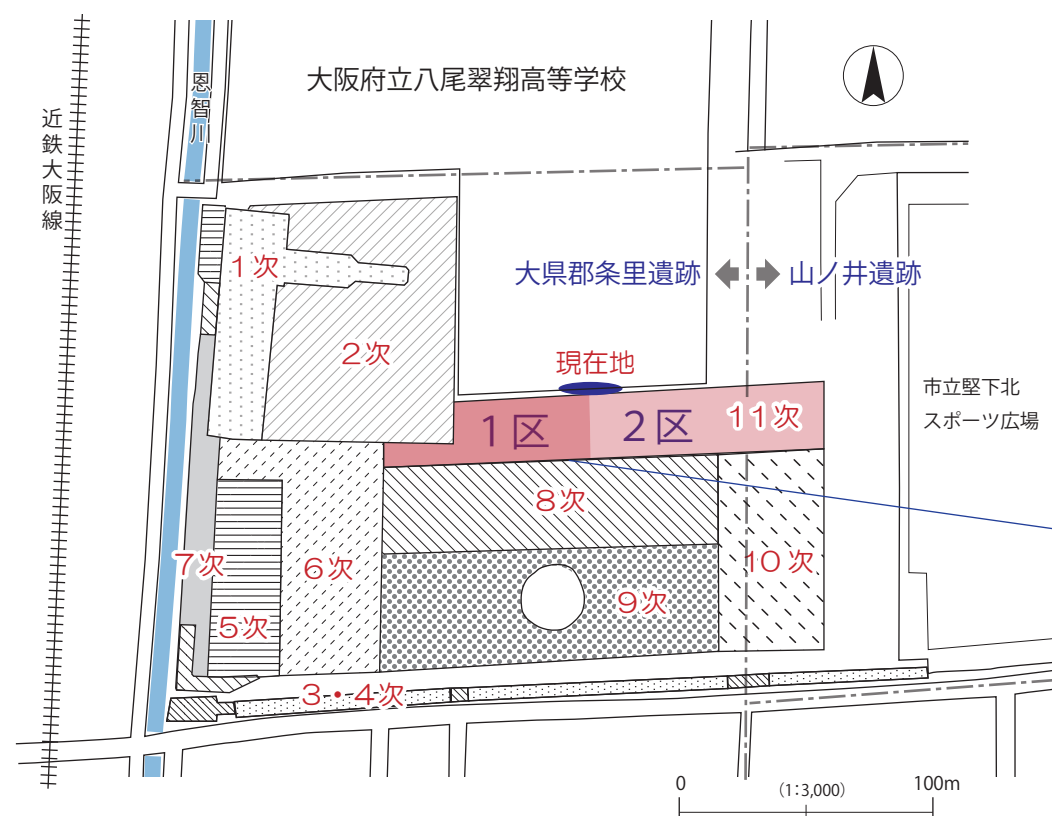


おおがたぐんじょうり やまのい
大泉郡条里遺跡・山ノ井遺跡 現地公開資料



今回の発掘調査は、寝屋川流域総合治水対策の一つである恩智川（法善寺）多目的遊水地の整備に先立ち、令和5年1月から実施しています。

事業予定地の範囲には大泉郡条里遺跡と山ノ井遺跡が広がっていて、公益財団法人大阪府文化財センターでは、平成23年度以降、発掘調査を継続して行ってきました。今回の発掘調査は11回目にあたります。

発掘調査では、現代の盛土や江戸時代以降の田んぼ・はたけの耕作土を機械で掘削した後、それ以前に形成された地層をスコップやジョレン等を使って人力で掘り進めています。

大泉郡条里遺跡と山ノ井遺跡は平野部の低い場所にあり、湿地状の環境が長く続いたため、縄文時代から中世の間に堆積した地層は主として泥質の土で、厚みは約1.5mに達します。

今回の発掘調査で、上層では平安時代後期から中世後半の田んぼやはたけがみつかりました。田んぼやはたけはアゼや溝をマス目状に規則正しく設置した条里型地割で、現在でも道路や田んぼの区画にその痕跡が残っています。

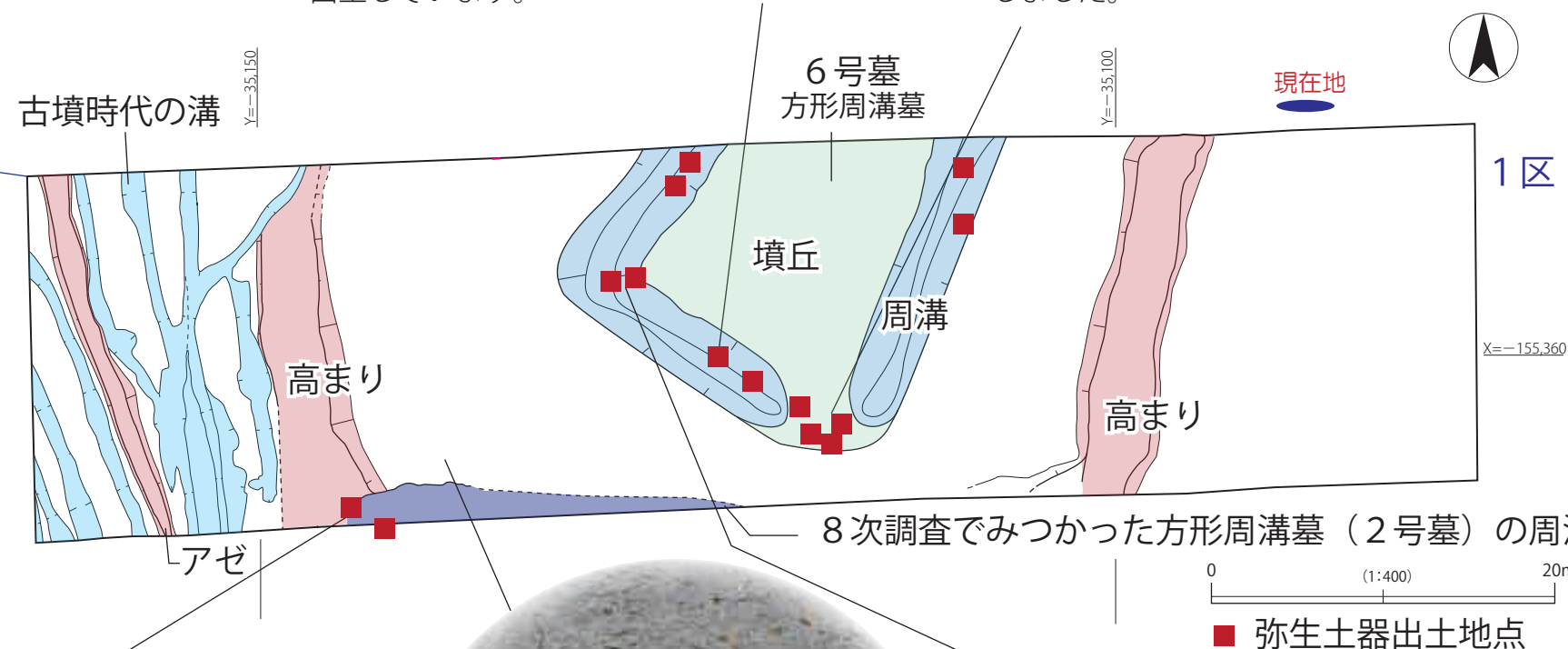
下層では弥生時代中期後葉（約2,000年前）のお墓がみつかりました。お墓は墳丘のまわりに溝をめぐるせた周溝墓で、墳丘の形状が四角であることから方形周溝墓と呼ばれています。周溝内からはお供えやマツリに使用した弥生土器が多数出土しています。



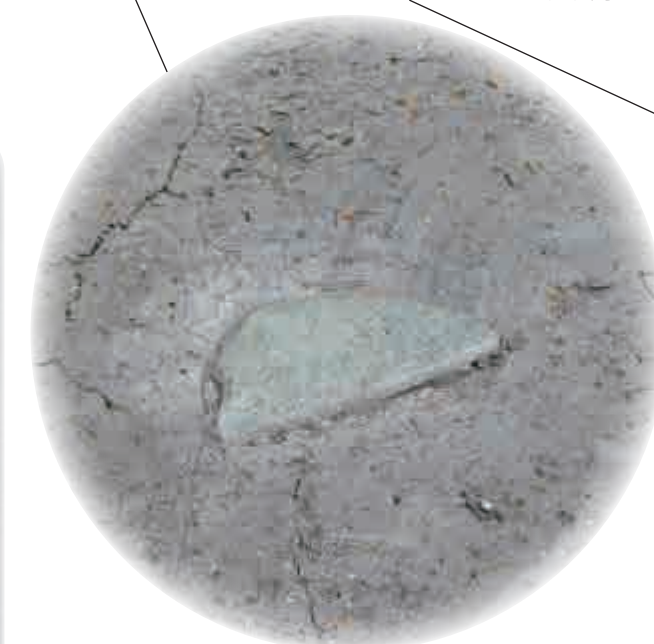
墳丘斜面から出土した弥生土器
墳丘の上から転がり落ちたような状況で出土しています。



周溝内から出土した弥生土器
墳丘の南東側から大量の弥生土器が出土しました。



甕・壺の出土状況
周溝の南西角から弥生土器がまとまって出土しています。



石庖丁出土状況
稲穂を刈るための道具として使用した石庖丁が出土しました。



大形の甕出土状況
復元すると高さが50cmぐらいになります。

大県郡条里遺跡・山ノ井遺跡でみつかった周溝墓

大県郡条里遺跡・山ノ井遺跡では、これまでの発掘調査で合計6基の周溝墓が確認されました。周溝墓は、弥生時代中期後葉のもの（2・6号墓）が2基、弥生時代後期から古墳時代前期のもの（1・3～5号墓）が4基みついています。このうち、弥生時代中期後葉の周溝墓は、縄文時代晩期中葉以前の砂礫層が堆積することによってできた、地形の高いところに立地していて、近接してつくられています。

弥生時代中期後葉の2・6号墓は、墳丘の形が長方形です。埋葬施設は2号墓周溝内の南側で検出された埋葬施設を除き、これまでの調査で確認されていません（6号墓は現在調査中で、埋葬施設の確認をおこなっているところです）。埋葬施設はみつかっていませんが、他の地域でみつまっている同時代の周溝墓の調査成果から、複数の人を埋葬していた（複数埋葬）可能性が高いと想定しています。

一方、弥生時代後期から古墳時代前期の1・3～5号墓は、1・3・4号墓の墳丘の形が方形・長方形、5号墓が円形です。墳丘は削平されており、埋葬施設は確認されていません。弥生時代後期中葉の周溝墓と同じく同時代の他の周溝墓の調査成果から推測するしかありませんが、一つの墳丘に対し一人を埋葬していた（単数埋葬）ものと想定しています。

では、これらの周溝墓に埋葬された人は、どのような人たちでしょうか。

柏原市法善寺の周辺では、今回の周溝墓と同じような規模の周溝墓群が今のところみつからないことから、周溝墓に埋葬された人はこの地域の有力者だったと考えられます。

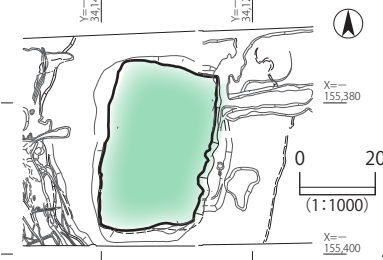
6号墓

墳丘の形状：長方形

規模：縦約 17m以上
横約 16～17m

埋葬施設：調査中で、今のところみつかっていません

出土遺物：弥生土器（甕、広口壺、高杯、鉢）、
石庖丁、サヌカイト製石核・剥片



2号墓は墳丘の改築（つくりなおし）を行っています。古段階のものが6号墓の墳丘の向きと方向が合っています。

2号墓(古段階)

